

N-66

ライフステージ別に見た子供の送迎交通行動分析

中部大学工学部 正会員 磯部 友彦
 中部大学大学院 学生会員 井上 満夫
 名古屋大学大学院 学生会員 花井 卓也
 大日コンサルタント 林 昌哉
 ナイスコーポレーション 森田 一紀

1. はじめに

人の交通行動は、自分のために行うものもあれば、他者のために行うものもある。たとえば、子供の交通行動についていえば、ある一定の年齢以下では親の保護が必要であり、またその年齢以上であっても時には必要となる場合がある。そこで本研究では、子供の送迎活動に着目し、親が子供にどのように関わっているか、またそれが他の交通行動にどのように関連しているかを探る。

2. データの概要

平成7年に豊田市内の大手自動車会社を始めとする製造業の勤務体制が変更され、その際に生活行動調査が行われた。その調査はライフステージを考慮して対象従業員と一般市民からそれぞれ200世帯を抽出し、勤務体制変更の前後合わせて6日間行った¹⁾。このライフステージとは、表-1に示すように妻の職の有無や子供の有無、またその年齢によって大きく10種類に分類したものである。本研究では、このデータを用い分析を行う。

表-1 ライフステージの設定

妻の職 有 無	子供の年 など	① 若夫婦のみ	② 末子が 6才未満	③ 末子が 小中学生	④ 末子が 高校生以上	⑤ 老夫婦 or三代同居の老夫婦
専業主婦	A	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
有 職	B	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5

3. 分析方針

本研究では、まずライフステージごとに占める送迎活動者の割合を求めライフステージによる送迎トリップ（全ての交通手段を対象）の発生状況の違いを見る。次に送迎相手別に集計し、その中で数の多い子供について分析する。子供の送迎については、その場所や時間、移動手段を見て特徴を探る。

4. 分析結果

図-1は送迎活動者の割合を示したものであり、6日間に1回でも送迎活動をした人はこれに含まれる。これを見ると、女性の送迎活動者数の割合は男性のそれと比べ明らかに高いことがわかる。また送迎活動者の割合はライフステージによって大きな差があり、「A」の方にやや多く見られ、その中で「A-1」「A-2」「A-3」の女性には20%から30%の送迎活動者が現れている。「B」では「B-2」に多く現れ、50%を占めているがそれ以外はやや少ないことが分かる。このように送迎活動が時間に余裕のある専業主婦に多く見られることから、送迎活動は送迎をする側の人の時間に余裕がなければ行わないと考えられる。

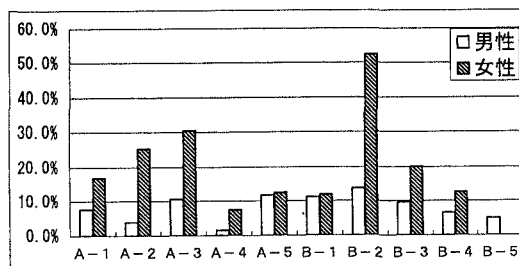


図-1 ライフステージ別送迎活動者の割合

次に女性の送迎活動について詳しく分析する。送迎相手を図-2に示す。これを見ると「A」「B」共に「3」の人に子供の送迎が多く現れていることがわかる。また、「A-1」「A-3」には、数は多くない

キーワード：交通行動分析、送迎交通、ライフステージ

連絡先：〒487 春日井市松本町1200番地 TEL 0568-51-1111（代）

が夫の送迎が現れているのに対し、「A-2」には現れていない。これは「A-2」では末子の年齢が0歳から6歳であるため保育園や幼稚園に通う子供が多く、送迎の必要性が出てくるため夫の送迎ができないと考えられる。このことから子供の送迎は夫の送迎より優先的に行われるものであり、子供の送迎の必要がなくなったとき夫の送迎が行われることが考えられる。

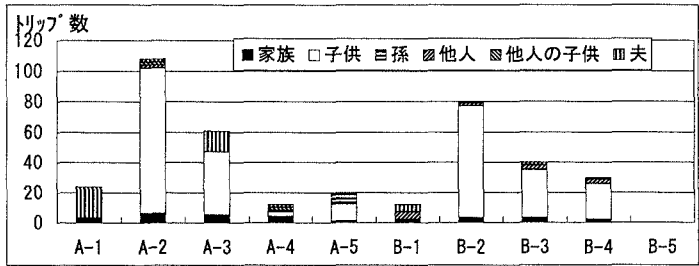


図-2 送迎相手別トリップ数

次に子供の送迎活動について詳しく分析する。図-3に子供の送迎場所別の出発時刻帯分布を示す。これより子供の送迎はすべての時刻帯にまたがって行われており、「送りトリップ」は7時から9時までの間に幼稚園や保育園へのトリップが集中し、その後16時から19時には塾へのトリップが集中している。

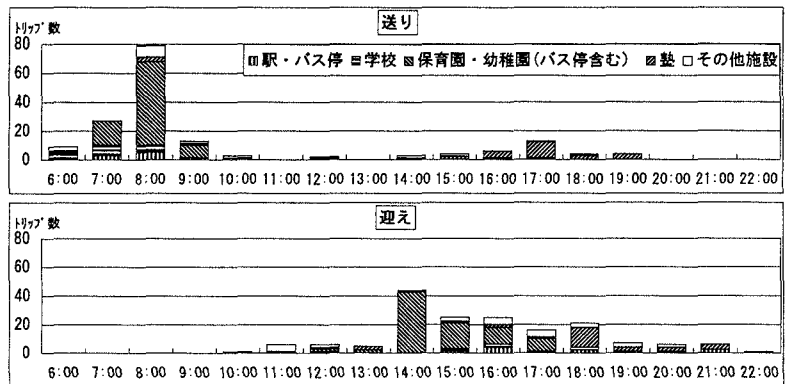


図-3 子供の送迎場所別出発時刻帯分布

「迎えトリップ」では14時から17時に幼稚園や保育園へのトリップが集中し、その後21時までの間は塾へのトリップが発生している。以上より、子供の送迎は1日中行われており他の活動へ与える影響はかなり大きく「A-2」に属する女性と「B-2」に属する女性の差はここにあるのではないかと考えられる。つまり「A-2」の女性は送迎活動を行う必要があるために職に就いていない可能性があるということである。

次に図-4に子供の送迎活動時の移動手段を示す。これを見ると「B」の女性のほとんどが自動車を運転して子供を送迎していることが分かる。ところが「A」の女性の中には徒歩や自転車で送迎を行っている人がいる。これは、「B」の女性は仕事に就いているため、出社や退社の際について送迎を行っていることを示していると考えられる。

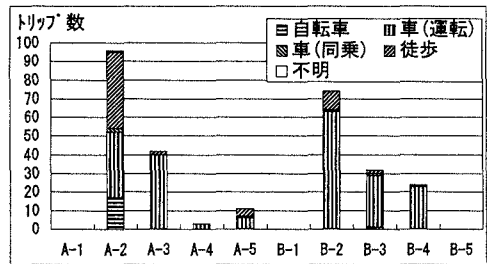


図-4 子供の送迎手段

5. 成果と課題

性別によって送迎活動の発生状況に大きな差が見られ、女性については職の有無によっても違いが見られた。また送迎の相手として子供に重点が置かれており、その送迎場所は保育園や幼稚園に集中していた。さらに職に就いている女性の子供の送迎のほとんどが自動車によって行われていることから、通勤と同時に送迎を行っていると考えられる。しかしそれを確かめるためには、今後送迎活動をいくつかの形態に分類し、送迎活動の前後関係を探る必要がある。

参考文献：1) 井上満夫, 竹内伝史, 磯部友彦：勤務形態変更に伴う従業員世帯の交通行動時間の変化、土木計画研究・講演集19(2)、1996